研究報告

看護大学生の職業的アイデンティティの形成に関する研究

—入学後間もない時期の構造と特徴—

生田奈美可[1)]　長川トミエ[1)]　清水佑子[1)]　浅井美穂[1)]

[1)] 宇部フロンティア大学人間健康学部看護学科

キーワード；看護大学生，職業的アイデンティティ，自己効力感，自尊感情

Ⅰ　はじめに

医療の高度化や在院日数の短縮化，医療安全に対する意識の高まり等，国民のニーズの変化を背景に，臨床実践能力と看護実践能力との間には乖離が生じ，その乖離が新人看護職員の離職の一因であると指摘されている[1)]．また近年，大卒看護師の離職率が高いことが問題として挙げられる[2)]．一人前の看護職者としての能力を発揮できるようになる前に離職してしまうことは，専門職である看護職にとって，社会的に大きな損失であろう．そのため，組織に参入してきた看護師の能力を引き出し，看護職を一生の仕事として捉えるためのキャリア発達を支える方略を得ることが必要である．

大部分の看護学生は青年期にあり，自己同一性の確立に向け重要な発達課題をもつ．Erikson[3)]はアイデンティティについて，「自分自身の斉一性（セルフセイムネス）と時間の流れの中での連続性（コンティニュイティ）を直接的に知覚すること」と，「自己斉一性と連続性を他者が認めてくれているという事実を知覚すること」の2つの視点から述べ，個人がどのように感じているのかという自覚と，他者からどのように思われているのかという事実に焦点を当てている．また，職業における同一性の統合として職業的アイデンティティという概念があり，「自分にとって仕事とは何か，社会の中で仕事を通じて自分はどのようであるか，ありたいか等の主体的意識や感覚，職業を通しての自分らしさを確かめ，自分らしさを生かし育てていく職業的姿勢」と定義される[4)]．

看護学生の場合，自己の職業の選択，決定は入学前から始まっており，幼少期からの自らの経験や，周囲の医療職者からの影響等から，漠然とした職業的意識をもつ．看護学生の職業的アイデンティティは，学年進行に伴い職業的同一性拡散因子が高くなり，入学後高かった職業的アイデンティティは，学年進行に伴い，看護専門職への主体的意識としての職業的姿勢の中で変化する[5)~8)]．また職業的アイデンティティの獲得に向けた方策として，学生の学習過程の中で，患者や教師から評価される肯定的体験が職業的アイデンティティを強めることや，時期にあった教育指導を行うことが重要であることが報告されている[9)]．その中で高等教育機関である大学は，質の高い看護師を養成するという役割を果たさなければならない．看護大学生にとって，教育機関での職業への社会化は重要であり，入学後間もない時期からの動機付けや，学習における困難な状況に直面した際に，専門職業人としてのアイデンティティ形成に向けた教育的関わりが必要である．すなわち学生自身が，現在の困難な状況を，内面に起こる個人的な肯定的体験として捉え，自ら主体的・自律的に乗り越える支援を目指していくことは教員の課題となる．こうした看護師という専門職を担っていくために，看護学を学ぶ最初の段階である時期の看護大学生の職業的アイデンティティの特徴を踏まえた教育的支援を示す必要があるが，そうした報告はなかった．

また，自己効力感と自尊感情は，自己概念を構成する主な要素であり，職業的アイデンティティは，自己概念を基盤として形成される[10)]．自己効力感（Self-Efficacy：セルフ・エフィカシー）とは，社会的学習理論あるいは社会認知理論の中核をなす概念のひとつであり，個人がある状況において必要な行動を，効果的に遂行できる可能性の認知を指す[11),12)]．また自尊感情とは，自尊，自己受容などを含め，人が自分自身についてどのように感じているのか，その感じ方のことであり，自己の価値と能力に関する感覚および感情である[13)]．すなわち，自己効力感と自尊感情は，職

業的アイデンティティの中核をなす自己概念を構成する重要な要素であるため，看護職という職業的アイデンティティの構造と発達に大きく影響すると考える．しかし，看護大学生の職業的アイデンティティと，自己概念，すなわち自己効力感と自尊感情との関連ついては明らかになっていない．

本研究においては，看護大学に入学した1年次の学生がもつ職業的アイデンティティの構造を明らかにするとともに，自己効力感や自尊感情との関連を検討することによって，看護大学生の入学当初の職業的アイデンティティの特徴を検討する．本研究目的が達成されることにより，看護学を学ぶ初学者の時点から，看護専門職になることへの意識やイメージ，動機付けを高めるための教育への指針となり，看護学を学ぶ4年間，そして看護師としてのキャリアの積み重ねを段階的に行うことへ繋がる．さらには，将来的な看護職の離職予防や，看護の魅力に傾倒するまでに至る支援と環境を検討する一助となる．

Ⅱ　研究目的

本研究の目的は，入学後間もない時期の看護大学生の職業的アイデンティティの構造を定量的に明らかにするとともに，自己効力感や自尊感情との関連を検討することにより，職業的アイデンティティの特徴を明らかにすることである．

Ⅲ　用語の定義

職業的アイデンティティ：自分にとって仕事とは何か，社会の中で仕事を通じて自分はどのようであるか，ありたいか等の主体的意識や感覚，職業を通しての自分らしさを確かめ，自分らしさを生かし育てていく職業的姿勢についての個人の主体的自覚

Ⅳ　研究方法

1．調査対象

対象は，A大学看護学科第1学年（平成24年度入学）94名である．

2．調査期間

2012年7月から8月である．この時期は，看護大学に入学後間もない時期で，主に教養教育科目を学習している時期であり，実習経験はない．

3．調査方法及び内容

無記名自記式質問票調査を実施し，内容は以下の通りである．

1）属性及び背景

年齢，性別，学年，看護職のモデルとなる存在の有無（モデルの有無），現在の身体的健康状態と精神的健康状態については，「1：非常に悪い」～「5：非常に良い」で主観的に回答を得た．

2）職業的アイデンティティ

看護職を目指す学生の職業的アイデンティティの概念を表す32項目[14]で，1年生～最上級生を対象に検討されたものである．回答は，「1：全くそう思わない」～「5：非常にそう思う」の5段階のリッカートスケールで求め，得点の高いほうが職業的アイデンティティは高い．

3）自己効力感

個人がある状況において必要な行動を遂行できる可能性の認知を測定する尺度で，成田ら[15]によって信頼性，妥当性が検討されており，1因子構造，23項目からなる．回答は，「1：全くそう思わない」～「5：非常にそう思う」の5段階のリッカートスケールで求め，得点の高いほうが自己効力感は高い．

4）自尊感情

自尊，自己受容などを含め，人が自分自身についてどのように感じているのかについて測定する尺度で，内田ら[15]によって信頼性，妥当性が検討されており，1因子構造，10項目からなる．回答は，「1：全くそう思わない」～「5：非常にそう思う」の5段階のリッカートスケールで求め，得点の高いほうが自尊感情は高い．

4．分析方法

分析には回収された94名分の調査票のうち，欠損値のない88名（有効回答率93.6％）のデータを用いた．職業的アイデンティティの特徴を明らかにするために，各項目別に，性別，モデルの有無別，身体的健康状態（身体的健康低群・身体的健康高群），精神的健康状態（精神的健康低群・精神的健康高群）の高低群別に比較を行うとともに，因子構造を検討した．高低群別は，身体的・精神的健康状態のそれぞれ平均点を基準にした．また自己効力感，自尊感情について，性別，モデルの有無別，身体的・精神的健康状態の高低群別に比較を行った．さらに職業的アイデンティティの下位尺度と自己効力感，自尊感情との関連性を検討した．独立した2群間の差の検定はt検定を用い，職業的アイデンティティの因子構造の検討には因子分析（主因子法，Promax法）を用いた．相関関係性の検定はピアソンの積率相関係数で分析した．統計パッケージはSPSS19.0 for windowsを用い，5％の有意水準をもって統計学的に有意と判断した．

5．倫理的配慮

本研究においては，データは本研究目的以外には使用しないこと，対象者のプライバシーと匿名性の厳守，

個人は特定されないこと，研究への協力は自由意志であり，いつでも中断でき，中断しても不利益を被ることはないこと，調査票の回収をもって研究の同意とみなすこと，研究が終了した時点で収集したデータは全て破棄することを文書にて説明した．また，調査票から得られたデータには対象者ごとにID番号をつけ，鍵付きの場所に保管し，調査が終了時点でデータは破棄した．

V　結果

1．対象者の概要

対象者の概要を表1に示す．対象者は，女性60名（68.2％），男性28名（31.8％）．看護職としてのモデル有が48名（54.5％），モデル無が40名（45.5％）であった．身体的健康状態の平均得点は3.78±0.89点，女性3.97±0.78点，男性3.39±0.99点であり，女性のほうが男性に比べ有意に高く（t=2.69，p<.01），モデルの有無については有意な差はなかった．精神的健康状態の全体の平均得点は3.26±0.94点であり，性別，モデルの有無別に有意な差はなかった．

職業的アイデンティティ全体の平均点は117.9±15.5点，モデル有無別，身体的健康状態，精神的健康状態で有意差がみられた（t＝−3.17〜−2.63，p<.01）．

自己効力感の全体の平均点は69.8±9.79点，性別（t＝2.36，p<.05），身体的健康状態，精神的健康状態で有意差がみられた（t＝−3.84〜−3.63，p<.01）．自尊感情の全体の平均点は28.1±5.87点，身体的健康状態，精神的健康状態で有意差がみられた（t＝−3.72〜−3.41，p<.01）．

表1　対象の属性

n＝88

項目					検定
性別		女性	60人（68.2%）		
		男性	28人（31.8%）		
モデルの有無		有	48人（54.5%）		
		無	40人（45.5%）		
身体的健康状態	3.78±0.89	女性	n=60	3.97±0.78	＊＊
		男性	n=28	3.39±0.99	
		モデル有	n=48	3.77±0.86	
		モデル無	n=40	3.80±0.94	
精神的健康状態	3.26±0.94	女性	n=60	3.38±0.94	
		男性	n=28	3.30±0.90	
		モデル有	n=48	3.29±0.94	
		モデル無	n=40	3.22±0.95	
職業的アイデンティティ	117.9±15.5	女性	n=60	117.4±15.2	
		男性	n=28	119.0±16.4	
		モデル有	n=48	121.8±16.0	＊＊
		モデル無	n=40	113.3±13.8	
		身体的健康低群	n=30	111.4±14.0	＊＊
		身体的健康高群	n=58	121.3±15.3	
		精神的健康低群	n=56	114.2±15.8	＊＊
		精神的健康高群	n=32	124.6±12.9	
自己効力感	69.8±9.79	女性	n=60	71.4±9.72	＊
		男性	n=28	66.3±9.14	
		モデル有	n=48	70.5±10.7	
		モデル無	n=40	68.9±8.66	
		身体的健康低群	n=30	64.8±8.41	＊＊
		身体的健康高群	n=58	72.3±9.53	
		精神的健康低群	n=56	66.9±10.1	＊＊
		精神的健康高群	n=32	74.7±6.93	
自尊感情	28.1±5.87	女性	n=60	28.2±5.73	
		男性	n=28	27.8±6.27	
		モデル有	n=48	27.9±5.90	
		モデル無	n=40	28.3±5.90	
		身体的健康低群	n=30	25.0±5.97	＊＊
		身体的健康高群	n=58	29.6±5.21	
		精神的健康低群	n=56	26.5±5.88	＊＊
		精神的健康高群	n=32	30.7±4.88	

t検定

注）＊:p<.05，＊＊:p<.01

示してあるもの以外の単位はMean±SDである．

2．入学後間もない時期の看護大学生の職業的アイデンティティ

入学後間もない時期の看護大学生の職業的アイデンティティを項目別に表2に示した．

表2　入学後間もない時期の看護大学生の職業的アイデンティティ

n=88

項目内容		全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	少しそう思う	非常にそう思う	性差 女 n=60	性差 男 n=28	性差 検定	モデルの有無 有 n=48	モデルの有無 無 n=40	モデルの有無 検定	身体的健康 低 n=30	身体的健康 高 n=58	身体的健康 検定	精神的健康 低 n=56	精神的健康 高 n=32	精神的健康 検定
							平均(SD)			平均(SD)			平均(SD)			平均(SD)		
(1)私は看護職を選択したことはよかったと思う	n	1	5	12	36	34	4.17(0.81)	3.96(1.14)		4.29(0.90)	3.88(0.91)	＊	3.63(1.07)	4.34(0.74)	＊＊	3.88(1.37)	4.50(0.51)	＊＊
	%	1.1	5.7	13.6	40.9	38.6												
(2)私は看護職以外の仕事は考えられない	n	3	18	32	26	9	3.27(0.99)	3.14(1.04)		3.54(0.99)	2.85(0.89)	＊＊	3.23(0.97)	3.22(1.03)		3.12(1.06)	3.31(0.90)	
	%	3.4	20.5	36.4	29.5	10.2												
(3)私は看護職を生涯続けようと思っている	n	0	8	16	33	31	3.95(0.91)	4.07(1.05)		4.25(0.73)	3.67(1.10)	＊＊	3.83(1.02)	4.07(0.92)		3.89(0.95)	4.16(0.95)	
	%	0	9.1	18.2	37.5	35.2												
(4)私には看護職につくことが自分らしい生き方だと思う	n	1	11	30	30	16	3.48(0.89)	3.71(1.11)		3.75(0.96)	3.33(0.94)	＊	3.33(1.03)	3.67(0.93)		3.45(1.04)	3.75(0.80)	
	%	1.1	12.5	34.1	34.1	18.2												
(5)私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもっていることができる	n	0	4	28	31	25	3.80(0.86)	4.03(0.92)		4.02(0.86)	3.70(0.88)		3.67(0.96)	3.98(0.83)		3.77(0.89)	4.06(0.84)	
	%	0	4.5	31.8	35.2	28.4												
(6)私は看護職を志していることに誇りをもっている	n	0	3	18	37	30	4.05(0.83)	4.11(0.83)		4.31(0.72)	3.78(0.86)	＊＊	3.83(0.84)	4.19(0.80)		3.93(0.85)	4.31(0.73)	＊
	%	0	3.4	20.5	42.0	34.1												
(7)私は看護職という仕事を通じて人間として成長していける	n	0	0	14	44	30	4.12(0.64)	4.32(0.77)		4.19(0.67)	4.18(0.71)		4.00(0.87)	4.28(0.56)		4.09(0.75)	4.34(0.55)	
	%	0	0	15.9	50.0	34.1												
(8)現実の社会の中で、看護職として自分らしい生き方ができるようになると思う	n	0	5	27	46	10	3.67(0.75)	3.75(0.75)		3.81(0.73)	3.55(0.75)		3.30(0.79)	3.90(0.64)	＊＊	3.55(0.78)	3.94(0.62)	＊＊
	%	0	5.7	30.7	52.3	11.4												
(9)私は看護職が自分にあっていると感じる	n	0	14	44	22	8	3.23(0.74)	3.36(1.03)		3.38(0.82)	3.15(0.86)		3.00(0.87)	3.41(0.80)	＊	3.16(0.85)	3.47(0.80)	
	%	0	15.9	50.0	25.0	9.1												
(10)私は看護職を志すものとして、これからも成長していけると感じている	n	0	2	26	39	21	3.87(0.81)	3.96(0.74)		3.96(0.90)	3.83(0.64)		3.73(0.78)	3.98(0.78)		3.74(0.84)	4.16(0.63)	＊＊
	%	0	2.2	29.5	44.3	23.9												
(11)自分がどんな看護をしたいかはっきりしている	n	1	14	32	30	11	3.45(0.87)	3.32(1.09)		3.60(0.92)	3.18(0.93)	＊	3.03(0.85)	3.60(0.94)	＊＊	3.18(0.96)	3.81(0.78)	＊＊
	%	1.1	15.9	36.4	34.1	12.5												
(12)私は自分らしい看護をしていくことができると思う	n	0	7	47	29	5	3.33(0.68)	3.43(0.79)		3.40(0.76)	3.33(0.66)		3.30(0.65)	3.40(0.75)		3.23(0.69)	3.59(0.71)	＊
	%	0	8.0	53.4	33.0	5.7												
(13)自分がどんな看護職になりたいかはっきりしている	n	0	11	27	37	13	3.60(0.81)	3.57(1.07)		3.73(0.84)	3.43(0.93)		3.13(0.82)	3.83(0.84)	＊＊	3.32(0.90)	4.06(0.67	＊＊
	%	0	12.5	30.7	42.0	14.8												
(14)将来、自分らしい看護ができるようになると思う	n	1	10	39	30	8	3.83(0.88)	3.39(0.79)		3.46(0.94)	3.30(0.72)		2.93(0.74)	3.62(0.81)	＊＊	3.21(0.89)	3.69(0.69)	＊＊
	%	1.1	11.4	44.3	34.1	9.1												
(15)私は看護のあり方について、自分なりの考えをもっている	n	1	14	40	28	5	3.28(0.78)	3.18(0.94)		3.42(0.85)	3.05(0.78)	＊	3.10(0.76)	3.33(0.87)		3.14(0.84)	3.44(0.80)	
	%	1.1	15.9	45.5	31.8	5.7												
(16)私は看護職として、医師との関係においても独自性を発揮できるようになりたい	n	0	3	27	42	16	3.73(0.71)	3.96(0.88)		3.98(0.70)	3.60(0.81)	＊	3.83(0.79)	3.79(0.77)		3.79(0.82)	3.84(0.68)	
	%	0	3.4	30.7	47.7	18.2												
(17)私は看護職として常に自分らしく働けると感じている	n	0	9	45	28	6	3.27(0.73)	3.54(0.79)		3.35(0.79)	3.35(0.74)		3.17(0.79)	3.45(0.73)		3.16(0.68)	3.69(0.78)	＊＊
	%	0	10.2	51.1	31.8	6.8												
(18)現実の社会の中で、看護職として自分の可能性を十分に実現できるようになると思う	n	0	5	44	31	8	3.45(0.75)	3.54(0.74)		3.56(0.80)	3.38(0.67)		3.10(0.76)	3.67(0.66)	＊＊	3.32(0.77)	3.75(0.62)	＊＊
	%	0	5.7	50.0	35.2	9.1												
(19)私は看護職として医療の世界で不可欠な存在であると思っている	n	1	12	32	19	24	3.68(1.07)	3.43(1.07)		3.77(1.02)	3.40(0.98)		3.47(1.14)	3.67(1.03)		3.56(1.11)	3.69(1.00)	
	%	1.1	13.6	36.4	21.6	27.3												
(20)私は看護職として、これまでも、これからも、多くの人に必要とされていると思う	n	0	9	39	17	23	3.67(1.00)	3.50(0.96)		3.65(1.06)	3.58(0.90)		3.37(1.07)	3.74(0.93)		3.54(1.06)	3.75(0.84)	
	%	0	10.2	44.3	19.3	26.1												
(21)私は看護者として患者に必要とされていると思う	n	0	6	41	23	18	3.57(0.95)	3.68(0.77)		3.58(0.96)	3.63(0.81)		3.30(0.79)	3.76(0.90)	＊	3.45(0.91)	3.88)0.79)	＊
	%	0	6.8	46.6	26.1	20.5												
(22)私は看護職として、医療チームの一員として、今後ますます必要とされると思う	n	1	9	41	19	18	3.50(0.95)	3.50(1.04)		3.52(1.05)	3.48(0.88)		3.23(1.07)	3.64(0.89)		3.30(1.01)	3.84((0.81)	＊＊
	%	1.1	10.2	46.6	21.6	20.5												
(23)私は看護師として、背景に独自の学問体系をもっている	n	3	16	46	18	5	3.12(0.78)	2.96(1.04)		3.04(0.94)	3.10(0.78)		2.83(0.87)	3.19(0.85)		2.89(0.95)	3.38(0.61)	＊＊
	%	3.4	18.2	52.3	20.5	5.7												
(24)私は看護職として、医療チームの一員として独自な貢献ができると思う	n	0	3	50	28	7	3.42(0.70)	3.55(0.69)		3.48(0.73)	3.40(0.63)		3.27(0.64)	3.53(0.71)		3.38(0.70)	3.56(0.67)	
	%	0	3.4	56.8	31.8	8.0												
(25)私は看護者として患者を支えることができると思う	n	0	3	29	41	15	3.83(0.76)	3.64(0.78)		3.90(0.86)	3.63(0.63)		3.40(0.77)	3.97(0.70)	＊＊	3.68(0.86)	3.94(0.56)	
	%	0	3.4	33.0	46.6	17.0												
(26)看護を学んでいく過程で、看護職として自分らしさが出てきたような気がする	n	2	8	50	24	4	3.18(0.79)	3.32(0.72)		3.31(0.83)	3.13(0.69)		2.87(0.73)	3.41(0.73)	＊＊	3.04(0.81)	3.56(0.56)	＊＊
	%	2.2	9.1	56.8	27.3	4.5												
(27)私は看護職として、患者に貢献していきたい	n	0	0	13	39	36	4.25(0.70)	4.29(0.71)		4.40(0.64)	4.10(0.74)	＊	4.17(0.79)	4.31(0.57)		4.25(0.77)	4.28(0.58)	
	%	0	0	14.8	44.3	40.9												
(28)私は看護者として患者の願いに応えたいと思っている	n	0	1	10	44	33	4.28(0.64)	4.14(0.80)		4.40(0.64)	4.05(0.71)	＊	4.10(0.88)	4.31(0.57)		4.21(0.76)	4.28(0.58)	
	%	0	1.1	11.4	50.0	37.5												
(29)私は看護職として、社会に貢献していきたい	n	0	1	10	43	34	4.22(0.64)	4.32(0.82)		4.38(0.61)	4.10(0.78)		4.17(0.83)	4.29(0.62)		4.18(0.77)	4.38(0.55)	
	%	0	1.1	11.4	48.9	38.6												
(30)私は看護職として医療の発展に貢献していきたい	n	0	2	18	39	29	4.00(0.80)	4.25(0.75)		4.23(0.78)	3.90(0.78)	＊	4.20(0.76)	4.02(0.81)		4.05(0.84)	4.12(0.71)	
	%	0	2.2	20.5	44.3	33.0												
(31)私は看護職として、看護の世界の発展に貢献していきたい	n	0	3	22	36	27	3.93(0.84)	4.11(0.83)		4.19(0.82)	3.75(0.81)	＊＊	3.97(0.85)	4.00(0.84)		3.91(0.92)	4.13(0.66)	
	%	0	3.4	25.0	40.9	30.7												
(32)私は看護者として他の人ができない独自の成果を出したい	n	0	4	30	34	20	3.68(0.79)	4.03(0.92)		3.96(0.82)	3.60(0.84)	＊	3.93(0.91)	3.72(0.81)		3.73(0.90)	3.91(0.73)	
	%	0	4.5	34.1	38.6	22.7												

t検定

注）＊:p<.05, ＊＊:p<.01

職業的アイデンティティ32項目のうち，学生が多く肯定した項目は，「1．私は看護職を選択したことはよかったと思う」，「3．私は看護職を生涯続けようと思っている」等の9項目で，「少しそう思う」と「非常にそう思う」を合算すると，対象者の70％以上が，それぞれの項目に肯定を示した．反対に肯定する回答が少なかった項目は，「9．私は看護職が自分に合っていると感じる」，「12．私は自分らしい看護をしていくことができるようになると思う」等の7項目で，「少しそう思う」と「非常にそう思う」を合算の結果，肯定人数は対象者全体の40％に満たなかった．

性別については，どの項目においても有意差はなかった．モデルの有無についてt検定の結果，「2．私は看護職以外の仕事は考えられない」等の4項目について，強く有意差を認め（t＝−3.41〜−2.51，p<.01），また「28．わたしは看護者として患者の願いに応えたいと思っている」等の9項目について，有意差をみとめた（t＝−2.39〜−2.00，p<.05）．身体的健康状態については，「14．将来自分らしい看護ができるようになると思う」等の8項目について，強く有意差を認め（t＝−3.87〜−2.80，p<.01），「21．私は看護者として患者に必要とされていると思う」等の2項目について，有意差を認めた（t＝−2.35〜−2.24，p<.05）．精神的健康状態については，「13．自分がどんな看護職になりたいかはっきりしている」等の11項目について，強く有意差を認め（t＝−4.40〜−2.53，p<.01），「12．私は自分らしい看護をしていくことができると思う」等の3項目について，有意差を認めた（t＝−2.34〜−2.14，p<.05）．

次に，看護職を目指す大学生の職業的アイデンティティの概念を表す32項目について主因子法，プロマックス回転による因子分析を行い，入学後間もない時期の看護大学生がもつ職業的アイデンティティの構造化を図った．項目の確認として，天井効果とフロア効果がある項目を確認した．初回の因子分析では，固有値やスクリープロットをみて，4因子解を最適解として採用した．主因子法，プロマックス回転後，共通性，因子負荷量の確認を行った結果，表3のように因子が抽出された．

表3　入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの因子構造

n＝88

	項目	f1	f2	f3	f4
	f1　なりたい看護職観				
15	私は看護のあり方について、自分なりの考えをもっている	.828	.115	.134	−.385
14	将来、自分らしい看護ができるようになると思う	.755	−.244	.071	.142
13	自分がどんな看護職になりたいかはっきりしている	.738	.065	−.044	−.225
11	自分がどんな看護をしたいかはっきりしている	.736	.170	.172	−.258
9	私は看護職が自分にあっていると感じる	.720	.109	−.090	.094
17	私は看護職として常に自分らしく働けると感じている	.673	−.021	−.012	.051
12	私は自分らしい看護をしていくことができると思う	.657	−.156	.194	−.030
18	現実の社会の中で、看護職として自分の可能性を十分に実現できるようになると思う	.643	−.341	.080	.342
26	看護を学んでいく過程で、看護職として自分らしさが出てきたような気がする	.534	−.102	.094	.281
10	私は看護職を志すものとして、これからも成長していけると感じている	.501	.128	−.010	.276
4	私には看護職につくことが自分らしい生き方だと思う	.485	.387	−.133	.148
1	私は看護職を選択したことはよかったと思う	.429	.233	−.062	.232
	f2　看護に貢献したい思い				
31	私は看護職として、看護の世界の発展に貢献していきたい	−.042	.881	.070	.020
30	私は看護職として医療の発展に貢献していきたい	−.168	.873	.135	.037
2	私は看護職以外の仕事は考えられない	.283	.692	−.216	−.362
32	私は看護者として他の人ができない独自の成果を出したい	−.098	.682	.211	.049
29	私は看護職として、社会に貢献していきたい	−.206	.585	.085	.329
3	私は看護職を生涯続けようと思っている	.202	.554	−.165	.241
16	私は看護職として、医師との関係においても独自性を発揮できるようになりたい	.320	.381	−.041	.166
	f3　必要とされる看護師としての自己				
22	私は看護職として、医療チームの一員として、今後ますます必要とされると思う	−.010	.073	.908	−.101
20	私は看護職として、これまでも、これからも、多くの人に必要とされていると思う	−.112	.068	.855	.092
21	私は看護者として患者に必要とされていると思う	.033	−.067	.812	.083
23	私は看護師として、背景に独自の学問体系をもっている	.209	.007	.777	−.200
19	私は看護職として医療の世界で不可欠な存在であると思っている	.088	.133	.732	−.146
24	私は看護職として、医療チームの一員として独自な貢献ができると思う	.047	.109	.560	.156
25	私は看護者として患者を支えることができると思う	.209	−.110	.511	.337
	f4　看護に必要な人間としての成長				
7	私は看護職という仕事を通じて人間として成長していける	−.010	−.162	−.034	.848
28	私は看護者として患者の願いに応えたいと思っている	−.240	.219	−.012	.784
5	私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもっていうことができる	.009	.250	.063	.621
27	私は看護職として、患者に貢献していきたい	−.102	.379	.030	.596
6	私は看護職を志していることに誇りをもっている	.164	.330	.041	.507
8	現実の社会の中で、看護職として自分らしい生き方ができるようになると思う	.445	.015	−.205	.493
	因子間相関	f1	f2	f3	
	f2	65			
	f3	37	57		
	f4	72	36	27	

Promax回転
累積寄与率：60.17%

第1因子では,「15. 私は看護のあり方について自分なりの考えをもっている」,「14. 将来自分らしい看護ができるようになると思う」,「13. 自分がどんな看護職になりたいかはっきりしている」,「11. 自分がどんな看護をしたいかはっきりしている」,「9. 私は看護職が自分にあっていると感じる」などの項目が高い負荷量を示していた. 自分自身の看護職に対する考えや価値観をもつことを表す因子であると考えた. そこでこの因子を『f1 なりたい看護職観』と命名した.

第2因子では,「31. 私は看護職として看護の世界の発展に貢献していきたい」,「30. 私は看護職として医療の発展に貢献していきたい」,「2. 私は看護職以外の仕事は考えられない」,「32. 私は看護者として他の人ができない独自の成果を出したい」,「29. 私は看護職として,社会に貢献していきたい」などの項目が高い負荷量を示していた. 看護職に向かっている自らの強い意志と, 看護の現場を含めた医療に貢献したいという志向性をもつことを表す因子であると考えた. そこでこの因子を『f2 看護に貢献したい思い』と命名した.

第3因子では,「22. 私は看護職として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う」,「20. 私は看護職としてこれまでも, これからも, 多くの人に必要とされていると思う」,「21. 私は看護者として患者に必要とされていると思う」,「23. 私は看護師として背景に独自の学問体系をもっている」,「19. 私は看護職として医療の世界で不可欠な存在であると思っている」などの項目が高い負荷量を示していた. 医療現場の中で, 看護師という専門職として自分自身が必要とされているということを表す因子であると考えた. そこでこの因子を『f3 必要とされる看護師としての自己』と命名した.

第4因子では,「7. 私は看護職という仕事を通じて人間として成長していける」,「28. 私は看護者として患者の願いに応えたいと思っている」,「5. 私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもっていうことができる」などの項目が高い負荷量を示していた. 看護職という専門職になるという目標に向け, 日々の学習や生活を通じて成長していく自信と誇りを自らがもつことを表す因子であると考えた. そこでこの因子を『f4 看護に必要な人間としての成長』と命名した.

このことから, 入学間もない看護大学生がもつ職業的アイデンティティは,『f1 なりたい看護職観』『f2 看護に貢献したい思い』『f3 必要とされる看護師としての自己』『f4 看護に必要な人間としての成長』という4つの下位概念によって構成されることが明らかとなった.

最終的に, 入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティについて, 4つの因子それぞれに高い負荷量を示した上位5項目ずつを採用し, 尺度として構成した.

3. 職業的アイデンティティ, 自己効力感, 自尊感情の相関性の検討

職業的アイデンティティ, 自己効力感, 自尊感情の相関分析の結果を表4に示す. 職業的アイデンティティ, 自己効力感, 自尊感情の間にそれぞれ高い相関が認められた ($r=.29\sim.58$, $p<.01$). さらに, 検討された構造から明らかになった入学後間もない時期の看護大学生の職業的アイデンティティの4下位尺度と自己効力感, 自尊感情の相関を検討した (表5). その結果, 自己効力感は, 職業的アイデンティティの『f1なりたい看護職観』と有意に高い相関を認めた ($r=.45$, $p<.01$). また自尊感情は, 職業的アイデンティティの『f1なりたい看護職観』と有意に高い相関が ($r=.39$, $p<.01$),『f3必要とされる看護師としての自己』と有意に相関が認められた ($r=.27$, $p<.05$).

表4 職業的アイデンティティ, 自己効力感, 自尊感情との相関関係

n=88

		職業的アイデンティティ	自己効力感	自尊感情
職業的アイデンティティ	Pearson の相関係数	1	0.34	0.29
	検定		**	**
自己効力感	Pearson の相関係数	0.34	1	0.58
	検定	**		**
自尊感情	Pearson の相関係数	0.29	0.58	1
	検定	**	**	

r値

注) **: $p<.01$

表5　職業的アイデンティティの下位尺度と自己効力感，自尊感情との相関関係

n＝88

		なりたい看護職観	看護に貢献したい思い	必要とされる看護師としての自己	看護に必要な人間としての成長
自己効力感	Pearson の相関係数	0.45	−0.04	0.18	0.17
	検定	＊＊			
自尊感情	Pearson の相関係数	0.39	−0.09	0.27	0.05
	検定	＊＊		＊	

r値

注）＊:p＜.05，＊＊:p＜.01

Ⅵ　考察

Eriksonはアイデンティティについて，自分自身が単に存在しているという事実以上に，自我を統合する秩序として自己斉一性と連続性があり，さらに効果的に働かせる要因として，斉一性と連続性が他者から保証されることが必要である[17]と述べる．本考察においては，斉一性と連続性の視点から，入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの構造を検討するとともに，職業的アイデンティティの特徴について，モデルの有無や自己効力感，自尊感情との関連から考察する．

1．入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの構造

医療系学生の職業的アイデンティティを問う項目をもとに因子分析を行った結果，入学後後間もない看護大学生の職業的アイデンティティは，『f1 なりたい看護職観』『f2 看護に貢献したい思い』『f3 必要とされる看護師としての自己』『f4 看護に必要な人間としての成長』の4つの因子で構成されることがわかった．以下では4つの因子の構造について，斉一性と連続性の視点から考察する．『f1 なりたい看護職観』と『f4 看護に必要な人間としての成長』は，自分自身の思いや成長をテーマとする個人内での要因である．一方，『f2 看護に貢献したい思い』と『f3 必要とされる看護師としての自己』は，自己の思いと他者評価という自分と他者の認知をテーマとする社会的な側面である．また『f1 なりたい看護職観』『f3 必要とされる看護師としての自己』は，異論や反論などの存在を許容せずに，自らがある特定の方向に進んでいくことを示す斉一性の側面であり，『f2 看護に貢献したい思い』『f4 看護に必要な人間としての成長』は，過去から現在，そして将来に渡る時間軸の中で捉えた連続性の側面である．

〈Ps：看護師になる覚悟と今描く看護師としての自己像〉は，個人的側面と斉一性から捉えた概念であり，漠然としてはいるが，なりたい看護師像を思い描き，今後4年間の学生生活のプロセスを経て看護職になることへの覚悟を示す．〈Ss：将来自分が看護（社会）に貢献することへの自負〉は，社会的側面と斉一性から捉えた概念であり，社会に認められる自分の姿を思い描き，看護という職業に自信や誇りを持つことを示す．〈Pc：現在の自分の態度が導く将来の看護師としての自己像〉は，個人的側面と連続性から捉えた概念であり，現在の学習や人間としての成長によって，将来自分が思い描く看護師になるという時間軸における繋がりが重要であることを示す．〈Sc：将来自分が看護（社会）に貢献することへの期待〉は，社会的側面と連続性から捉えた概念であり，将来看護の現場に貢献することが実現することを望んでいることを示す．以上について表6のように整理し，入学後間もない時期の看護大学生の職業的アイデンティティの構造とした．

表6　入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの構造

	個人的側面(P) personal	社会的側面(S) society
斉一性(s) sameness	Ps:看護師になる覚悟と今描く将来の看護師としての自己像 →f1.なりたい看護職観	Ss:将来自分が看護(社会)に貢献することへの自負 →f3.必要とされる看護師としての自己
連続性(c) continuity	Pc:現在の自分の態度が導く将来の看護師としての自己像 →f4.看護に必要な人間としての成長	Sc:将来自分が看護(社会)に貢献することへの期待 →f2.看護に貢献したい思い

2．入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの特徴

モデルの有無については，モデル有の学生は，モデル無の学生に比べ，職業的アイデンティティが有意に高かった．モデルを得ることで，看護教育初期の学生は，将来なりたい看護職観を確立し，看護師になるために必要な人間としての自己の成長から，医療現場に貢献する看護師という専門職への誇りを感じると考える．また自己効力感，自尊感情と職業的アイデンティティとの間には相互に強い関連がみられ，自己効力感と自尊感情は，アイデンティティを構成する中核要素であることが示唆されたが，自己効力感と自尊感情について，モデルの有無による差はなかった．すなわち，入学後間もない看護大学生にとってモデルの存在は，自らの職業的アイデンティティを確立することに直接的に大きく影響する要因であることが示唆された．入学後間もない時期の学生にとってのモデルは，近親者に看護職者が存在する家庭では，家族・近親者の姿を通して看護師のイメージを形成していることが多い[18]．学習が進んでいく中で，教員や臨床の看護師が学生にとって，魅力あるモデルとして存在感を示すことで，学生は入学時にもつ肯定的な看護職観や動機付け，良いイメージを維持できると考える．

また，職業的アイデンティティの下位因子別に自己効力感，自尊感情との相関性を検討すると，職業的アイデンティティの『f1 なりたい看護職観』は，いずれにも相互に強い相関があることがわかった．『f1 なりたい看護職観』は，個人的側面と斉一性の視点から〈Ps：看護師になる覚悟と今描く看護師としての自己像〉を特徴にもつ．すなわち，学生の看護師になるという自覚と，将来に渡って自らが進んでいく看護職観を肯定的に維持することが教育的関わりに重要であり，そのために自己効力感と自尊感情を高めることが必要であることが示唆された．本調査の対象は，調査時期である7～8月において主に教養科目を履修しており，人体の構造と機能，看護の概念，看護援助技術の基本や援助方法を教授する科目を学び進めている．入学後早期に看護の専門基礎知識を教授することで，漠然とではあるが，なりたい看護職観は育まれているのではないかと考える．しかし1年次の学生は，優しい，親しみやすい，穏やかなといった一般的な看護職のイメージを持ち[19]，このイメージは「ロマンチックな職業の憧れの段階」ともいえる[20]．学生は学習が進むにつれ，看護師には様々な能力が必要なことに気づかされ，自己課題が明確化する．この明確化のプロセスにおいて，入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの特徴である「なりたい看護職観」を支えるために，漠然と揺れる看護職へのイメージをもつ学生の自己効力感や自尊感情を維持していく教育的支援が必要である．すなわち本研究において，学生の職業的アイデンティティの形成維持にあたり教員は，学生の「なりたい看護職観」を支えるとともに，学生自身が問題や課題を遂行できる可能性の認知ができ，自分を価値的存在として位置づける感覚を持つといった自己効力感や自尊感情を高めることの教育的重要性が示唆された．

Ⅶ　結論

入学後間もない看護大学生の職業的アイデンティティの特徴と教育的関わりについて，以下のように結論づけられた．

1．看護大学生の職業的アイデンティティは，『f1 なりたい看護職観』『f2 看護に貢献したい思い』『f3 必要とされる看護師としての自己』『f4 看護に必要な人間としての成長』の4下位尺度で構成される．
2．看護大学生の職業的アイデンティティの特徴として，自我を統合する自己斉一性と連続性の視点より，〈Ps：看護師になる覚悟と今描く看護師としての自己像〉，〈Ss：将来自分が看護（社会）に貢献することへの自負〉，〈Pc：現在の自分の態度が導く将来の看護師としての自己像〉，〈Sc：将来自分が看護（社会）に貢献することへの期待〉の構造で整理された．
3．看護職としてのモデルが有ることは，入学後間もない看護大学生にとって，自らの職業的な自己同一性を確立することに直接的に大きく影響する要因である．
4．自己効力感と自尊感情は，看護大学生の職業的アイデンティティを構成する中核要素である．
5．職業的アイデンティティの因子『f1 なりたい看護職観』は，〈Ps：看護師になる覚悟と今描く看護師としての自己像〉を特徴とする．なりたい看護職観として，看護師になるという覚悟と，将来に渡って自らが進んでいく看護職観を，学生が肯定的に維持できる教育的関わりが重要である．
6．職業的アイデンティティの因子『f1 なりたい看護職観』は，自己効力感と自尊感情のいずれにも強い相関性が認められた．学生の自己効力感や自尊感情を高めるための教育的関わりが必要である．

Ⅷ　本研究の限界

本研究における限界は以下である．

職業的アイデンティティは心理的概念であり，経験的側面が影響する．これらの要因を十分に検討するためにも，統計学的手法のみではなく，さらに質的に詳細な分析が必要である．また職業的アイデンティティは発達的変化が予測されるため，今後さらに学年進行に伴う変化・発達を検討していくための縦断的調査分

析を実施する必要がある.

謝辞

本研究の調査に御協力頂いた対象者の学生の皆様に，心より御礼申し上げます.

文献

1) 日本看護協会：新人看護職員研修ガイドライン，http://www.nurse.or.jp/home/kisokyouiku/pdf/guidline.pdf，2011.
2) 日本看護協会：2010年 病院における看護職員需給状況調査，http://www.nurse.or.jp/home/opinion/newsrelease/2011pdf/20110420.pdf，看護 離職率，2010.
3) E.H.エリクソン，西平直訳：アイデンティティとライフサイクル，誠信書房，7，1973.
4) 園田雅代，中釜洋子：職業的同一性を通してみた中堅女子社員の研究その1　SCT法による検討，日本心理学会第51回発表論文集，554，1987.
5) 安藤詳子，内海滉：看護学生の自我同一性に関する研究　職業的同一性形成について，日本看護研究学会雑誌，16(3)，80-88，1993.
6) 藤縄理，水野智子，谷合善旦他：学生の専門職アイデンティティ確立を援助するための教育についての検討，埼玉県立大学紀要，5，105-110，2004.
7) 松下由美子，木村周：看護学生の職業的同一性形成を規定する要因の検討，教育相談研究，31，29-45，1991.
8) 小藪智子，黒田裕子，合田友美他：看護学生の職業的アイデンティティ形成に関する研究（第二報）— 経年的変化から考える教育的支援 —，川崎医療短期大学紀要，27，25-29，2007.
9) 前掲論文 8).
10) 原井美佳；看護師長アイデンティティに関連する要因の検討，日本看護管理会誌，11(2)，59-66，2008.
11) 坂野雄二：一般性セルフ・エフィカシー尺度の妥当性の検討，早稲田大学人間科学研究，2，91-98，1989.
12) 坂野雄二，東條光彦，一般的セルフ・エフィカシー尺度作成の試み，行動療法研究，12，73-82，1986.
13) 内田知宏，上埜高志：Rosenbergの自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討 — Mimura & Griffiths訳の日本語版を用いて—，東北大学大学院教育学研究科研究年報，58(2)，257-266，2010.
14) 藤井恭子，野々村典子，鈴木純恵他：医療系学生における職業的アイデンティティの分析，茨城県立医療大学紀要，7，131-142，2002.
15) 成田健一，下仲順子，中里克治他，特性的自己効力感尺度の検討 — 生涯発達的利用の可能性を探る —，教育心理学研究，43(3)，306-314，1995.
16) 前掲論文 13).
17) 前掲著書 4)，7.
18) 白鳥さつき：看護大学生が看護職を自己の職業と決定するまでのプロセスの構造，日本看護研究学会雑誌，32(1)，113-123，2009.
19) 前掲論文 18).
20) 波多野梗子，小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化，日本看護研究学会雑誌，16(4)，21-28，1993.